

2014年度 ソーシャルワーカーのスキルアップを目指す実践セミナー  
2014.10.19 メルパルク京都

## かけがえのない時間を大切に過ごすための意思決定支援 ー緩和ケアの現場からー

一般社団法人 WITH医療福祉実践研究所 がん・緩和ケア部  
社会福祉士 医療ソーシャルワーカー  
田村里子

## かけがえのない時間を大切に過ごすための意思決定 ー緩和ケアの現場からー

- はじめに :用語の整理 と私たちの立ち位置
- 緩和医療の現場における意思決定の局面と支援
- 意思決定支援に求められること
- 意思決定の過程に生じていること
- 医療チームメンバーとしてのソーシャルワーカーによる意思決定支援
- まとめ

## はじめに : 用語の整理

- 自己決定:(self determination)自分自身や生活のありかたについて自ら決めていくこと
  - 意思決定:(decision making)特定の目標を達成するために複数の代替案から、最善の解を求めようとする行為  
(大辞林第3版)
- 医療現場では、選択の局面で、意思決定を重ねつつ医療が進められる

## ソーシャルワーカーの 立ち位置

- ソーシャルワーカーは、個人が自己の人生や生活課題について自ら選び決定していくという「自己決定」を、実践の価値として存在する専門職
- 医療の受け手の側に立って意思決定支援を行う専門職:ソーシャルワーカーとして、当事者主体に貫かれた意思決定支援をする

## 緩和医療の現場における 意思決定の局面と支援

- 緩和ケアへの移行
- 日常生活の過ごし方の選択
- 栄養補給について
- 緩和策について
- 療養の場所について
- 最期の過ごし方 看取りについて

## 意思決定のプロセス

1. 現況認識 (問題・課題状況の分析と理解 把握)
2. 自己認識(健康・能力等の自己状況分析と理解)
3. 目的・目標の設定
4. 達成への選択肢の模索…そのための 情報提供  
各選択肢の結果予測 優先順位の検討と決定
5. 計画(決定したことの実現に向けたプラン)
6. 評価

### 緩和医療の現場における 意思決定の局面と支援－1

- 緩和ケアへの移行  
希望する選択肢がない中での選択の結果  
→ 本人が選択する事の苦渋に  
思いを馳せ寄り添う  
本人が意思決定に至らぬままの方向付けの結果  
→ その結果への思いや、発せられなかった意向の  
行き着くところはどこか…思いを馳せつ 支える
- 意思決定すること・意思決定の結果への  
折り合いを支える

### 緩和医療の現場における 意思決定の局面と支援－2

- 日常生活のすごし方の選択
- ・外出・外泊  
「うちの庭の桜を見に行きたい」
- ・思い出づくりの イベント  
「なんとか娘の結婚式だけは出席させてやりたい」
- 限りある人生の過ごし方についての選択支援  
時に生命の危機に直結する可能性もはらむ局面

### 緩和医療の現場における 意思決定の局面と支援－3

- 栄養補給について  
栄養補給 輸液や水分補給はどこまで、どの程度？  
胃瘻、腸瘻、経鼻チューブ、IVH、末梢？等々  
医学的な説明と共に提案、選択の局面  
EX.胃瘻の増設の選択→どこで過ごすかに直結
- 次の療養場所を想定しつつ、その後の人生の  
過ごし方の 選択支援  
どう生きたいかのその選択は、その人を実現するか

### 緩和医療の現場における 意思決定の局面と支援－4

- 緩和策について  
あらゆる緩和策が効をなさない状況下での  
セデーション(鎮静:患者の苦痛緩和を目的として患者の  
意識を低下させる薬剤を投与すること、あるいは、患者の  
苦痛緩和のために投与した薬剤によって生じた意識の低  
下を意図的に維持すること。「日本緩和医療学会 苦痛緩  
和の為の鎮静に関するガイドライン」)の提案
- 「生命に直結した選択」の局面と捉える患者と家族  
意思決定に伴う痛みを 自身を寄せていく  
共に在ることの「質」が問われる

### 緩和医療の現場における 意思決定の局面と支援－5

- 最期の過ごし方 看取りについて  
「最期まであきらめずに手をつくしてほしい」  
「自然に看取ってほしい」  
どんな言葉にも 常に含まれる曖昧さ
- 言葉が発した真意を推し量り、言葉の意味する所に  
たどりつくための深い対象者理解  
その意向や希望に適合する医療的介入を、医療  
チームに橋渡ししつつ共に考え、意思決定の内容の  
実現へ向けた支援  
ソーシャルワーカーの通訳機能やアドボカシーが  
求められる場面

### 意思決定支援の局面に求められるもの

- ・ リアルニーズをつかむ  
患者と家族が生きてきた固有の物語の拝聴
- ・ 患者家族の「価値」への感受性:優先順位の尊重
- ・ 深い感情の交流・家族力動を読み葛藤へも介入
- ・ 的確な情報提供 (新しさ・正確さ)  
「医療」へ「地域・福祉」への通訳機能

## 意思決定を実現する地域連携

- 「私が行く場所があるのか」「どこで死ぬのか」という患者の切実な不安の受け止めからの支援
- 在宅療養支援体制づくり
  - ・在宅診療医師や訪問看護師との密なネットワークによる継続的な支援(「いざという時」の受け入れ体制の確保)
  - ・介護保険サービスを中心とした在宅療養環境の整備
- 在宅以外の療養場所の設定
  - ・「家には帰れない」しかし「治療継続を望む」難しさ

## 意思決定のための環境整備「情報」

- ・医療の意思決定場面にある「情報」の課題は重大
  - ・医療の担い手と受け手の絶対的な知識量の差
  - ・選択肢の内容や選択後のプラス面とマイナス面の選択に必要な充分な理解の難解さ
- 十分理解された上での意思決定か？
- ・流されずに、情報の不足の現況を明らかに
  - ・情報不足についてのアドボカシーは、環境整備として必要な意思決定支援

## 意思決定のための環境整備「パターンリズム」

- ・パターナリスティックな状況に陥りがち
  - ・医療者側の価値・判断の影響を受けがち
  - ・専門職の「良かれ…」の持ちが、本人を差し置き先行する
- 支援者として、常に注意を喚起しつつ、意思決定場面に臨む  
意思決定支援に必須の姿勢

## 意思決定のための環境整備「時間」

- 意思決定支援は、常に時間制限との闘い  
Ct:「状況に追いつかない気持ち…」  
「否認したい・向き合うには時間を要する現実…」
- 何があれば意思決定に 対峙できるのか  
限られた時間で必要な支援は？
- ・歩みを進めるものは、やり場のない思いの痛み分けであることも
  - ・限定された時間で熟考し、いかに意思決定支援を妥当にできるのか
  - ・支援する側に切実な課題・試煉

## 代理意思決定の課題「家族への支援」

- 代理意思決定者となった家族への支援  
家族の心理的な負担や自責感  
決定とその結果を巡って家族間の葛藤が生じる
- 家族へのケアとも捉えられるもの  
家族の代理意思決定も多い  
代理意思決定者の家族への支援

## 意思決定のプロセスで生じていること

- 医療者の考える最善の利益と当事者の選好が異なる
  - 患者本人と家族の意向に相違がある
  - 家族内の意向が不一致で、家族間の合意形成へ向け調整が必要
- 様々な価値が交差し、一筋縄では行かない  
意思決定支援は、臨床倫理的な課題が含まれる  
支援が倫理的に妥当か 諸刃の局面の積み重ね

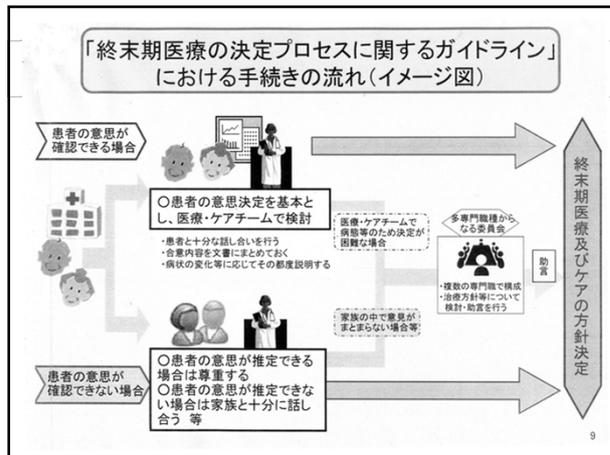
## 医療チームのソーシャルワーカーとしての 意思決定支援

### ■ 医療における意思決定支援は、チーム医療で！

#### 「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」

厚生労働省 平成19年

- 患者の意思と 十分な情報に基づく決定が最も重要 → 患者の意思の確認から始まる
- 患者の意思が確認出来ない時は、家族と医療チームで、患者の意思と最善を話し合う



## 終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン

厚生労働省 平成19年5月

終末期医療の決定プロセスにおいては、患者、家族、医療ケアチームの間での合意形成の積み重ねが重要

### 1 終末期医療及びケアの在り方

- ・ 患者とその家族のインフォームド・コンセント(十分な情報に基づく決定)
- ・ 終末期医療における医療行為は、医療・ケアチームによって、慎重に判断すべき
- 「医療の開始・不開始、医療内容の変更、医療行為の中止等」は医療ケアチームによって「医学妥当性と適切性」を下に慎重に判断
- ・ 緩和ケアの重要性(可能な限り疼痛や不快な症状を十分に緩和し、患者・家族の精神的・社会的な援助も含めた総合的な医療およびケア)
  - 注6. 人が終末期を迎える際には、疼痛緩和ばかりでなく、他の種類の精神的・社会的問題も発生します。可能であれば、医療・ケアチームには、ソーシャルワーカーなど社会的な側面に配慮する人が参加することが望まれます
- ・ 積極的安楽死については言及しないと 明記

## 医療チームのソーシャルワーカーとしての 意思決定支援-1

### ■ 「意向の明確化」への支援

本人自身が本当は何を望んでいるか 明確ではない場合

➔ 相談を通し明確に

援助者の持っている価値や選好が相手への誘導要因とならないように

### ■ 本人自身の価値や人生の事情、その個人にとっての最善について個別化された判断に行き着く サポート

➔ ソーシャルワーク実践の価値に共通

明確になった「意向の実現」に向けたソーシャルサポート

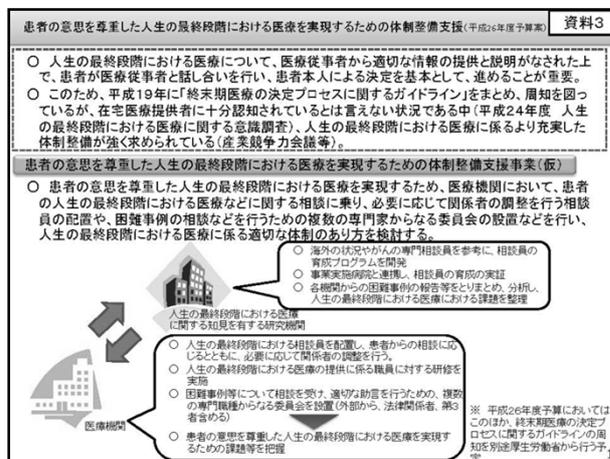
## 医療チームのソーシャルワーカーとしての 意思決定支援-2

### ■ チームの意思決定支援のプロセスを妥当なものにするために

### ■ 極めて高い個別性を担保するためには、ソーシャルワーカーの積極的な関与が不可欠

### ■ 医療チームへの介入は、今、その人が生きるために必要な「環境としての医療」への介入

### ■ 組織や地域におけるメゾレベルの実践



### 人生の最終段階における医療にかかる相談員の育成等について

- ◆ 社会保険制度改進黨国会議報告書では、医療の在り方については、医療提供者の側だけでなく、医療を受ける国民の側がどう考え、何を求めるかが大きな課題となっており、死すべき運動にある人間の尊厳ある死を視野に入れた「QoD(クオリティオブデス)を高める医療も有様に導入する必要があることが提議されている。
- ◆ 一般国民への意識調査の結果によると、人生の最終段階における医療のあり方については、「患者・入居者、家族への相談体制の充実」が望まれていた。（「終末期医療のあり方に関する懇談会の報告書」(平成22年12月)）
- ◆ このことから、患者が人生の最終段階における医療についての情報や相談を希望する場合、患者のニーズに応じて、人生の最終段階における医療に関する情報提供や意思決定支援、また関係者との調整を行える相談員を養成・配置する必要がある。
- ◆ がん患者については、がん連携拠点病院の相談支援センターにがん専門相談員が配置されており、がんの治療や緩和ケア等の相談に対応しているが、非がん患者を含めすべての患者に対応できる人生の最終段階における医療相談体制を、特に緩和ケアチーム等が配置されている、医療機関に対して構築する必要がある。
- ◆ 人生の最終段階における医療相談員の要件については、適切な情報の提供と説明が実施され、それに基づいて患者が医療従事者と話し合いを行い、患者本人の決定を支援するプロセスであることから、看護師、メディカルソーシャルワーカー等で一定の研修を受講した者であることが望ましい。

<p><b>□ 人生の最終段階における医療にかかる相談員の役割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の医療・ケアチームとともに人生の最終段階における医療についての情報提供及び意思決定支援。（事前指示書の作成が目的ではない。）</li> <li>・ 医療内容の決定が困難な場合の倫理委員会の活用と調整。</li> <li>・ 緩和ケアを希望する場合の専門医療機関等への紹介。</li> <li>・ 「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」（平成19年5月厚生労働省）の医療機関内への普及活動。等。</li> </ul>	<p><b>□ 人生の最終段階における医療にかかる相談員の研修</b></p> <p>【研修内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」に準拠。</li> <li>・ 人生の最終段階の病態と対応方法に対する基本的知識及びカウンセリングやコミュニケーション技法の基本を中心とした患者の意思決定を支援するプロセスを学ぶ。</li> </ul> <p>【研修内容の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 目的</li> <li>② 人生の最終段階における医療にかかる相談員の位置づけ</li> <li>③ 倫理委員会の立ち上げ・役割</li> <li>④ 厚生省終末期の決定プロセスのガイドライン詳説</li> <li>⑤ 意思決定支援実践（法律、倫理、緩和、海外の動向等）</li> <li>⑥ 意思決定支援実践（各職場、状況における実践例）</li> <li>⑦ グループワーク</li> <li>⑧ 研修振り返り</li> <li>⑨ 職場に戻っての活動の実際</li> </ul>
<p><b>□ 人生の最終段階における医療にかかる相談員の要件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護師、メディカルソーシャルワーカー等であって、一定の研修を受講した者。</li> </ul>	

### まとめ

## 意思決定におけるソーシャルワーク

- **医療現場における選択の局面: 意思決定場面で、そこにどれだけ本人自身が深くコミットし自身が反映された自己決定がなされるかを支援**
- **個人の価値を理解し、その価値に照らし合わせ選択肢を共に精査し局面を支援**
- **意思決定のための環境整備と決定の実現へその方自身の個別の価値と人生への敬意と尊重情報サポート等のソーシャルサポートアドボカシー・エンパワーメント**

### 参考文献/資料

- ・「ソーシャルワークとは何か～その本質と機能」ブトゥリム 川島書店(1986)
- ・「本人・家族のための意思決定プロセスノート: 高齢者ケアと人工栄養を考える」清水哲郎・会田薫子(2013)医学と看護社(2012)
- ・「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」厚生労働省(2007)
- ・「ソーシャルワークにおける倫理」田村里子 日本医療社会福祉協会 基幹研修Ⅱテキスト(2013)
- ・「緩和ケアにおけるソーシャルワーク: いのちに向き合う」田村里子 日本医療社会福祉協会 スキルアップ研修 (2013)
- ・「意思決定におけるソーシャルワークの射程～緩和医療における実践から」田村里子 日本医療社会福祉学会 (2014)